細見昌代さん

高校 14回生

松の緑、茂る窓辺から歌声が響いていた60年ほど前のお話です。中塩先生のご指導で、数人の仲間で人形劇の会を立上げ、孤児院で人形劇を披露し、子供たちと遊ぶという奉仕の会です。

人形も衣装も舞台も全て手作りで、何度も失敗しながら制作し、台本も生徒が書き、人形操作の練習をし、仲間との絆を深めていったとても貴重な時間がありました。

ある日のこと、仲間の一人が知り合いの方からバームクーヘンの切り残しがあるから、慰問に行かれる時に持って行って下さいと沢山の切り残しバームクーヘンを戴きました。相当量が届いていたと思いますが、慰問当日には殆ど消えていました。

さてどこに消えてしまったのでしょう？　私も含めお仲間のお腹の中に！

その頃は今と違って、ケーキ屋さんの数も少なく、そのお店のお菓子は甘く、美味しく、綺麗で毎日食するようなものではなかったと思います。

学校の食堂ではエクレアとコーラがあるくらいで、二時間目が終わるや否や、お弁当を食べ、昼食時には図書館に走り、終了後にエクレアとコーラでお腹を満たす日常でした。

人形作りや、舞台作り、台本の読み合わせ、人形操作の練習にはかなりの時間を要します。
皆お腹も空いてくる頃に、甘い美味しい切れ端バームクーヘンがあれば、食べたくなります。少しずつつまんでしまい、気付いた時は慰問の分量には全く足りない、もうあきらめるしかないということで残りは一気に無くなったのです。

お店の方、子供たち本当にごめんなさい。

ばらしてしまったお仲間の方達、ごめんなさいです。

孤児院訪問の当日は持参のはずの慰問品なしでしたが、その分仲間が頑張り、子供たちと仲良く遊び、皆気持ちよく帰りました。

ミッションスクールの松蔭は奉仕の精神を尊び、生徒の自主性を尊重する教育理念があります。その中で自然に孤児院の子供たちと関われたと思います。共に遊び、楽しむ時間を共有したのです。

人形劇は手段の一つであり、目的ではありません。手段の段階が友人を作り、作業工程で試行錯誤し、仲間意識が芽生え、子供たちと交わることで社会を見せてもらう。

ちょっといいどころか素晴らしい時間がありました。中塩先生、人形劇同好会のお仲間の皆さまに感謝申し上げます。